

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

小山保育園

横浜市緑区小山町 292

運営主体: 社会福祉法人 山百合会

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	4~6 ページ
● 分類・項目別評価結果	7~16 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	17~24 ページ
● 利用者本人調査分析	25~27 ページ
● 事業者コメント	28 ページ

公表日: 2016 年 10 月 24 日

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	小山保育園（保育所）		
報告書提出日	2016年9月23日	評価に要した期間	4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2016年6月15日～2016年7月13日	① 職員会議やリーダー会議で趣旨を説明し、各個人で記入した。その後各クラス内で話し合い、さらに記入した。 ② 各個人が記入したものを職員会議やリーダー会議、パート会議において意見を出し合い、項目ごとに確認した。 ③ 園長、主任、各クラスリーダーでまとめ、最後に職員会議などで確認を行った。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2016年6月20日～2016年7月1日	① 全園児の保護者（86世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2016年7月29日 第2日 2016年8月2日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：2歳児クラス、幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：書類調査。理事長・園長・主任に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。 その後、理事長・園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2016年7月29日 第2日 2016年8月2日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

小山保育園は、JR 横浜線および横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から歩いて 15 分ほどの高い丘の上にあります。周辺には、畑や竹林、住宅などがあり、緑豊かな自然に恵まれています。

小山保育園は昭和55年（1980年）5月に社会福祉法人山百合会によって開設されました。運営法人は他に緑区内に1園、港北区に4園保育園を運営しています。

園舎は斜面に建てられていて、2棟に分かれています。斜面を利用した広々とした園庭にはたくさんの遊具が設置されています。園庭には、実のなる木がたくさん植えられ、夏には心地よい木陰を作っています。また、近くには広い園の畑があります。

定員は100名、開園時間は平日（月曜日～金曜日）は7:00～20:00、土曜日は7:00～18:30です。

園目標として「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、豊かな自然環境の中、子どもたちはたくさんのおことを学び成長しています

園の周囲には竹林や畑が広がり、豊かな自然に恵まれています。園庭には、ミカンやイチヨウなど実のなる木がたくさん植えられ、片隅では乳児が野菜や花を育てています。また、カブトムシやセミ、コガネムシなどの虫もいて、子どもたちの楽しみとなっています。観察時にも乳児がセミの声を聞き分けたり、5歳児が園庭で捕まえたカブトムシの世話をしたり、観察して図鑑で調べたりする姿をみることができました。

近くにある園の畑は広く、幼児が野菜や季節の花を育てています。サツマイモやナス、トマト、スイカなどたくさんの野菜を育て、子どもたちは生長の様子を観察し、収穫し、調理して食べています。また、梅やブルーベリー、ミカンなども収穫し、梅ジュースや梅干し、ジャム作りなどの食育を季節ごとに行っています。茶摘みやタケノコ掘りなども経験します。

園庭は斜面になっていて、ローラー滑り台やロッククライミング、アスレチック、砂場などの遊具が設置されています。子どもたちは、斜面についての階段を上り下りし、ロッククライミングを楽しみ、遊びながら自然に身体を鍛えています。また、砂場で、水を流して水路作りをしたり、泥んこ遊びを楽しんだりしています。

このように、子どもたちは自然とのふれあいの中で、風や雲や水、草や木等で季節の移り変わりを肌で味わい、旬の食材に触れて季節の味覚を知り、木の実や葉等を用いた製作で感性を養い、園庭遊びで身体能力を高めています。子どもたちは、自然と関わる中、自分たちで遊びを見つけ、皆で工夫して発展させることで、友達との関わり方や科学する目を養い、成長しています。

2、保育士は一人一人を大切に保育にあたっていて、子どもたちに思いやりの心が育っています

保育士は、園の理念の実現に向け、子ども一人一人に寄り添い、子どもの思いの把握に努めています。把握した子どもの思いは職員会議で話し合い、一人一人の目標として個別指導計画に落とし込み、保育に活かしています。職員会議やクラス会議では子ども一人一人の様子について情報交換し共有しています。

保育士は、子ども一人一人の性格や好みをよく把握し、子どもの遊ぶ様子を見守り、子どもに合わせた声掛けをしています。集団活動に上手く入れない子どもには声掛けをして誘いますが、子どもが興味

を示さなかった場合には、その子どもに合わせた環境設定を工夫するなどしています。子どもは、他の子どもの活動の様子を見ながら好きな遊びをし、子ども同士で声をかけ合い関わる中で、気持ちが活動に向いていき自然な形で活動に参加することができます。保育士もなぜ参加できないかを周りの子どもに代弁し、子ども同士の関わりを後押ししています。

このような保育士の姿勢は子どもたちにも確実に伝わっていて、子どもたちはお互いの良さも悪さもそれぞれの個性として認めています。子どもたちは、遊びの中で自然にお互いの良さを引き出し、お互いの足りない部分を補い合っていて、思いやりの心が育っています。

3、地域の施設として、地域に根付いています

開園から40年近く、園からはたくさんの保護者や卒園生が巣立ち、地域で活躍しています。地域との関わりは深く、隣接する市営住宅の建て替えの際には委員会に参加して広場の使用について話し合ったり、山下小学校の学童の設立に関わったりしています。

また、地域に対し、園庭開放や育児相談、育児講座（夏野菜収穫、お芋掘り、陶芸遊び）などの子育て支援を行っています。

地域自治会に参加し地域自治会のパトロールに園に立ち寄ってもらう、園内の掲示板に地域の小学校や障がい者施設のコーナーを設けるなど地域との関係を大切にしています。地域の畑でブルーベリー狩りをさせてもらったり、地域の農家に園の畑についてのアドバイスをもらったり、近隣のグループホームと日常的に交流したりと、子どもたちも地域と様々な形で交流しています。

このように、園は地域の施設として地域とともに発展し、地域に根付いています。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、職員個々の自己評価を園としての自己評価につなげることが期待されます

保育士は、年度末に自分自身の業務についての自己評価を行い、その結果を次年度に活かしています。また、年間の運営に関する振り返りをクラス会議やリーダー会議で行っています。年度末には保護者アンケートを実施して振り返り、結果を保護者にフィードバックしています。

ただし、このような素地が出来上がっているにもかかわらず、園としての自己評価は行われていません。今後は園としての自己評価を管理層がまとめ、園が抱える課題や今後の方向性について職員間で共有することが期待されます。

2、クラス間の情報共有を深めるためのさらなる工夫が期待されます

園は斜面に建設されている関係から2棟が3層構造になっていて、隣り合っていない保育室については、活動の様子が伝わりにくい構造となっています。

園としても、課題ととらえていて、乳児、幼児が合同で過ごす時間を作ったり、異年齢が交流できる行事を意図的に増やしています。職員会議や申し送りノート等を用い情報共有しています。園長、主任が定期的にラウンドするとともに、保育士はお互いに声をかけ合い細かな活動内容を確認し、連携を図っています。

ただし、園の構造の問題もあり、クラス内の活動の様子までは目に届きにくい状況にあることが、観察時にも感じられました。積極的にクラス間で交流の機会を作るなど、さらなる工夫が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・園目標は「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強くたくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」で、利用者本人を尊重したものになっています。
- ・職員会議などで子どもへの接し方や言葉掛けについて話し合い、職員間で注意し合える関係を作っています。保育士は子どもの目線に合わせて穏やかに優しく話しかけています。保育士は子どもの言葉に耳を傾け、子どもに問いかけたり言葉を足したりして、子どもの言葉を引き出し、子どもの気持ちを把握するよう努めています。
- ・虐待防止マニュアルが作成されており、全職員が虐待については周知しています。虐待が疑われる場合には、園長・主任が窓口になって横浜市北部児童相談所などの機関に連絡しています。
- ・個人情報管理規程があり、全職員に周知しています。保護者に対しては、年度初めに個人情報の取り扱いについての基本方針を配布し、同意書を受け取っています。ホームページなどに子どもの写真などを掲載する場合には、その都度個別に確認しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・0～2歳児は個別指導計画を作成しています。3～5歳児については、個別目標を立てています。
- ・園庭には実のなる木や季節の草花がたくさん植えられ、カブトムシなどの虫もいて、子どもが季節の自然と親しむことができます。近くには園の畑があり、子どもたちが季節の野菜や花、果物を育てています。飼育や食育、製作など、自然の恵みを保育の様々な場面で活かしています。
- ・園庭には、長いローラー滑り台やアスレチック、鉄棒、ロッククライミングなどが設置されていて、遊びながら運動能力を高めることができます。体操やリズム遊び、室内でのトンネルやウレタンブロックを用いての遊びなど、身体を動かす活動を多く取り入れています。
- ・2棟3層構造となっているため、それぞれのクラスの様子が分かりにくい構造になっていますが、朝夕の自由遊びや園庭遊びの時に異年齢児が交流しています。また、散歩や誕生会等の行事、お買い物ごっこや異年齢での食事、5歳児が1・2歳児のお世話に行くなど、異年齢児が交流できる機会を多く設けています。
- ・タケノコ掘りや芋掘り、季節の野菜の収穫、梅干作りやジャム作り、茶摘みなどの活動を通し、子どもたちが季節の食材に触れる機会を作っています。
- ・旬の食材を用い季節に合った和食中心の献立となっています。野菜を多く使い、だしをたくさん使って子どもが食べやすいような優しい味付けとなっています。おやつも手作りで、朝のおやつは野菜、午後のおやつにも野菜を用いています。また、レストランごっこ、お弁当パーティ、バイキング、ピクニック給食と子どもが食を楽しめるような機会を作っています。
- ・子どもの送迎時には、保護者とのコミュニケーションに努め、その日の子どもの様子を伝えています。乳児は毎日、幼児は必要時に連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。年1回、個人面談を行っています。個人面談は、保護者の要望があればいつでも応じます。
- ・保護者会があり、交流会、親子遠足、ふれあい祭り等の行事の主催、駐車場の管理等を行っています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・各年齢ごとに月間指導計画、週案を作成しています。月案や週案を作成する時には、職員会議などで個々の子どもの状況を話し合っ、その情報を共有しながら作成しています。
- ・職員は障がいのある子どもについても、その個性を認める保育をしています。子ども同士も、お互いにその個性を認めるような様子が見られます。

- ・健康管理、衛生管理、安全管理、事故対応などの各種マニュアルを整備し、職員に周知しています。
- ・マニュアルに基づき保育士が子どもの視診を行っています。看護師は一日 2 回保育室を見て回り、子どもの健康状態を確認し保育士の相談にのっています。
- ・マニュアルを更新した時には、職員会議で報告しています。マニュアルを保育室に置くとともに、トイレや保育室の必要な場所に掲示し、その場で確認できるようにしています。
- ・毎月、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。炊き出し訓練も行っています。

4、地域との交流・連携

- ・子育て支援事業として、一時保育、園庭開放、交流保育（毎月のお誕生会、運動会）などを行っています。また、育児講座を年 3 回実施しています。育児相談のテーマとしては、造形遊び、夏野菜収穫、陶芸遊び、お芋掘りなどを実施しています。
- ・毎週月、火、木、金の 10 時から 11 時半に育児相談を受け付けていて、実績もあります。
- ・自治会長等とコミュニケーションを図り、行事の際、子どもが広場（プレイロット）を利用するにあたり、声をかけたり出向いたりしています。
- ・和太鼓やハンドベルを山下小学校に貸し出しています。
- ・地域の広場を使用した際には、掃除をするなど地域と友好的な関係を築くために努めています。
- ・子どもたちは散歩で地域住民と挨拶や会話を交わしています。また、地域の園芸店に畑に植える苗を買いに行っています。幼児は、近隣のブルーベリー畑でブルーベリー摘みをしています。
- ・近隣のグループホームのお年寄りとは、行事に招待したり子どもたちが遊びに行ったりして交流しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性


- ・運営法人の新人研修で保育理念の DVD を見たり、職員会議でも保育の理念や基本方針を話し合っています。また、全職員を対象とした自己評価の項目の中に、保育理念の理解度も入っており、全職員が園の基本方針を理解する仕組みが作られています。
- ・職員の倫理規定、就業規則等で職員が不正な行為を行わないように明文化され、周知されています。
- ・園の周囲には様々な樹木が植わっており、園は自然の緑に囲まれています。さらに園庭にみかん、柿、ゆずなどの樹木を植えたり、プランターに様々な草木を植えるなどして、緑化に取り組んでいます。
- ・重要な園の課題については、職員とは職員会議、リーダー会議などで、経過報告をして、職員理解を求めています。保護者に対しては保護者懇談会を通して保護者との間で意見交換を行っています。
- ・園長は運営法人の系列園の園長会に出席したり、緑区園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集しており、園に関係する重要な情報については、リーダー会議や職員会議等で共有しています。
- ・運営法人では、平成 28 年度までの 5 年間の中期計画、29 年度から 34 年度までの中期計画を策定しています。

6、職員の資質向上の促進



- ・運営法人が必要な人材をチェックし、多様な方法で人材を募集し、必要な人材を補充しています。
- ・非常勤職員の中から、常勤職員にふさわしい職員については、常勤職員として採用する仕組みをもっています。また、常勤職員が、子育てなどで、毎日の勤務が難しくなったときには、非常勤職員に職系転換を図るなど、勤務しやすい仕組みを作っています。
- ・運営法人では、内部研修の年間計画を作成しています。これには職員は積極的に参加することが求められています。外部の研修会にも職員は積極的に参加しています。
- ・月間指導計画や週案は、必ず振り返りが行われており、記録に残されています。これらの振り返りは、指導計画の狙いとの関連づけで行われています。

- ・年度末には、自分たちの自己評価を踏まえて、年間の運営に関する振り返りをクラス会議やリーダー会議で行っています。
- ・保育園として、園の理念や方針、保育課程に沿って自己評価は行っていません。職員の自己評価と保護者のアンケートという他者評価があり、園としての自己評価を行う素地ができあがっています。これらを統合して園としての自己評価が行われることが期待されます。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 I 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。 (2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。 (3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人の保育目標は「子ども達が信頼できる大人集団となるためにすべての人と手をつなぎ輪を広げます」「子どもの身体づくりの為によりよい食事のあり方を目指します」「子どもの五感を大切に、生きる土台をつくります」となっています。また園の目標は「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」強く、たくましく、思いやりのある子」自然の中で、のびのびと遊べる子」となっており、利用者本人を尊重したものになっています。 ・法人の新人研修で保育理念のDVDを見たり、職員会議でも保育の理念や基本方針を話し合っています。また、全職員を対象とした自己評価の項目の中に、保育理念の理解度も入っており、全職員が園の基本方針を理解する仕組みが作られています。 ・保育課程は、保育理念、保育方針に基づき、子どもの利益を第一義にしています。 ・各年齢ごとに、それぞれの段階に合わせて、その子どもに合った方法で説明し、コミュニケーションを深めています。 ・言語化できる子どもについては、丁寧に意見を聞こうとしています。言語化できていない子どもについては、その表情・動作から様々な方法で子どもの意向を把握しようとしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。 (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。 (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園までの家庭生活の状況を入所時面接記録票、家庭環境調査票に記載してもらっており、把握しています。入園児の面接や調査票で得られた情報は、児童票に記載されて、日々の保育に活かされています。 ・新入園児については、主担当とする子どもを決めて記録を記載しています。タオル、おしゃぶり、ぬいぐるみなど子どもが心理的よりどころとするものを持ち込むことは自由にしています。 ・各年齢ごとに月間指導計画、週案を作成しています。月案や週案を作成する時には、職員会議などで個々の子どもの状況を話し合っており、その情報を共有しながら作成しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保育室の開口部は大きく、網戸を通して換気が十分行われており、また空気清浄機を取り入れて気になる臭いを取り除くようにしています。
- ・0・1歳児の沐浴設備には温水シャワーが備えられています。また、園庭の水道設備や渡り廊下となっている広いスペースにも温水シャワーが備えられており、プールや外遊びをしたときに使用しています。各設備は、清掃マニュアルに従って清潔に保たれています。
- ・0歳児の保育室はブロックなどで小さなコーナーを作っており、また、1歳児は低月齢児と高月齢児を分けており、さらにコーナーを設けるなどして、小集団保育ができるように工夫しています。4歳・5歳の保育室は大きく作られており、異年齢の行事を行うときなどに使用されています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。
- (2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・0~2歳児は個別指導計画を作成しています。3~5歳児については、個別目標を立てています。特別の課題がある場合には、3歳児以上の幼児についても、個別指導計画を作成しています。
- ・入園時に、それまでの家庭の状況、健康状況、発達状況などを決められた書式に記録しています。入園後の発達記録は児童票、健康台帳に記載していきます。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有されているか。
- (2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・特に配慮を要する子どもを受け入れています。個別に問題のある子どもについてケース会議を行っており、また、個別日誌に記載し、情報を共有しています。
- ・保育園が斜面に建設されている関係から、3階構造となっており、階段が多く、身体に障がいがある子どもへの対応が困難になっています。しかし、その一方で、職員は障がいのある子どもについても、その個性を認める保育をしています。子ども同士も、お互いにその個性を認めるような様子が見られます。
- ・虐待防止マニュアルが作成されており、全職員が虐待については周知しています。虐待が疑われる場合には、園長・主任が窓口になって横浜市北部児童相談所などの機関に連絡しています。
- ・アレルギーについては、入園時の健康台帳に記載してもらっており、アレルギーがある場合には、「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を医師に記載してもらっています。除去食を提供する際には、普通食と間違わないようにトレーを別なものにするのと同時に、テーブルも別にして、場所を分けています。
- ・外国籍の子どもを受け入れています。その生活習慣や宗教、考え方の違いについての配慮した保育をしています。少しでも日本語が分かる保護者に対しては、保護者と保育士がひらがなだけで記載する連絡帳を作ってコミュニケーションを取っています。

I-6 苦情解決体制



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・園のしおりに苦情相談窓口が記載されており、その中に第三者委員の名前と住所が載っています。
- ・毎年、年度末に保護者アンケートを実施し、園に対する満足度を調査したり、要望・意見を記入してもらっています。
- ・苦情対応マニュアルには、福祉サービス運営適正委員会および横浜市福祉調整委員会といった権利擁護機関の連絡先が記載してありますが、園のしおりや、保育所内の掲示物には、権利擁護機関の紹介がされていません。今後こうした権利擁護機関を知らせていくことが期待されます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ-1 保育内容〔遊び〕



- (1)子どもが主体的に活動できる環境構成(おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど)ができているか。
- (2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。
- (3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。
- (4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。
- (5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。
- (6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

- ・おもちゃは子どもの目の高さの棚に並べられ、子どもが自分で選んで取り出して遊ぶことができます。乳児には布おもちゃや音の出るおもちゃ、幼児はブロックやすごろく、トランプなど年齢や発達にふさわしいおもちゃが用意されています。おもちゃは子どもの発達や興味、季節などに合わせて入れ替えています。
- ・子どもが興味ある絵本や紙芝居を劇遊びに発展させたり、子どもが好きな曲やポーズを子どもと話し合いながら体操やリズム遊びに取り入れるなど、子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れています。
- ・保育士は子どもの遊びの中に入り、必要に応じて遊び方のヒントを出したり、お手本を見せたりしています。集団遊びに上手く入れない子どもには、保育士が楽しく遊んでいる様子を見せることで子どもが興味を持ち遊びに入りたいという気持ちになれるように援助しています。
- ・園庭には実のなる木や季節の草花がたくさん植えられ、カブトムシなどの虫もいて、子どもが季節の自然と親しむことができます。近くには園の畑があり、子どもたちが季節の野菜や花、果物を育てています。食育活動やカブトムシの飼育観察、野菜の観察画やリース作り等の創作活動など、自然の恵みを保育の様々な場面で活かしています。
- ・2棟3層構造となっているため、それぞれのクラスの様子が分かりにくい構造になっていますが、朝夕の自由遊びや園庭遊びの時に異年齢児が交流しています。また、散歩や誕生会等の行事、お買い物ごっこや異年齢での食事、5歳児が1・2歳児のお世話に行くなど、異年齢児が交流できる機会を多く設けています。
- ・園庭には、長いローラー滑り台やアスレチック、鉄棒、ロッククライミングなどが設置されていて、遊びながら運動能力を高めることができます。体操やリズム遊び、室内でのトンネルやウレタンブロックを用いた遊びなど、身体を動かす活動を多く取り入れています。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・授乳の際には、他の子どもから離れた所で、一対一でゆったりと授乳しています。また、冷凍母乳を受け入れています。離乳食は、個人差や発達に合わせ、保護者の理解を得ながら進めています。子どものペースに合わせ、ミルクや食事の量を調整し、子どもがゆったりと食事を楽しめるようにしています。
- ・タケノコ掘りや芋掘り、季節の野菜の収穫、梅干作りやジャム作り、茶摘みなどの活動を通し、子どもたちが季節の食材に触れる機会を作っています。また、トウモロコシの皮むきやソラマメのさやむき、クリスマスケーキ、ロールサンド、ホットドックなどのクッキング活動をしています。
- ・旬の食材を用い季節に合った和食中心の献立となっています。野菜を多く使い、だしをたくさん使って子どもが食べやすいような優しい味付けとなっています。おやつも手作りで、朝のおやつは野菜、午後のおやつにも野菜を用いています。また、レストランごっこ、お弁当パーティ、バイキング、ピクニック給食と子どもが食を楽しめるような機会を作っています。
- ・クラス担任が子どもの喫食状況を把握し、クラスの保育日誌に記録しています。栄養士は日誌を確認するとともに、保育士からも口頭で聞き取り把握しています。毎月の法人の給食会議で子どもの喫食状況について報告し合い、献立に反映しています。
- ・年２回の懇談会、行事などの折に保護者が試食する機会を設けています。試食後にはアンケートを取り、保護者の意見を聞いています。また、慣らし保育期間中に親子給食を実施し、子どもと一緒に食べてもらい離乳食についての保護者の理解を深める機会としています。
- ・午睡前には絵本を読んだり、紙芝居を読んでもらったりし、落ち着いて眠りに入れるようにしています。乳児は保育士が個々に応じてトントンしたり、抱っこしたりしています。
- ・トイレトレーニングは子どもの発達や興味に合わせて個別に対応しています。0歳児クラスでも子どもが興味を示せば、タイミングを見てトイレに座っています。送迎時の会話や連絡帳で子どもの排泄状況について保護者と確認し合い、相談しながらトイレトレーニングを進めています。


Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]





- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・健康管理マニュアル、視診マニュアルがあり、それに基づき保育士が子どもの視診を行っています。看護師は一日２回保育室を見て回り、子どもの健康状態を確認し保育士の相談にのっています。
- ・年２回の健康診断、年１回の歯科健診があり、結果を児童健康台帳、歯科健診票に記載しています。保護者には、別紙を用いて伝えています。健康台帳とともに、入園前健康診断書、健康についての情報、摂取食品確認書などの個々の子どもの健康に関する記録をファイルし、一目で確認できるようにしています。
- ・感染症マニュアルがあり、園のしおりに感染症一覧、登園停止基準表、感染症への対応を掲載するとともに、入園説明会や懇談会


	<p>で保護者に周知しています。保育中に発症した場合には速やかに保護者に連絡し、空いている保育室を利用して、発熱の状態などの子どもの様子を見ています。</p>
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアル、清掃マニュアルがあります。マニュアルは法人の看護師部会で定期的に見直しています。園としては、年度末に見直すほか、感染症の流行時や研修などで最新情報を得た時に、そのつど見直しています。 ・マニュアルを更新した時には、職員会議で報告しています。マニュアルを保育室に置くとともに、トイレや保育室の必要な場所に掲示し、その場で確認できるようにしています。また、嘔吐処理の園内研修を看護師が実施しています。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p>  <p>(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。 (6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。 (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアル、緊急時防災マニュアル、事故対応マニュアルなどの安全管理に関する各種マニュアルが整備されています。警察や消防署、医療機関など関係機関のリストを整備しています。保護者に対しては、緊急連絡メールシステムを導入していて、テストメールによる訓練も実施しています。 ・毎月、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。炊き出し訓練も行っています。 ・事故対応マニュアル、受診病院リスト、消防署や警察などの関係機関リストなどを整備しています。重度のケガだけでなく首より上のケガについては軽傷であっても必ず保護者にすぐに連絡をしています。軽度の怪我については、連絡帳に記載し、お迎えの時に口頭で説明しています。伝え漏れがないよう、「子どもノート」に記載するとともに口頭でも伝達しています。 ・正門はオートロックで施錠し、モニターで確認して開錠しています。他の門は常時施錠しています。防犯カメラを設置し、夜間は警備会社による機械警備を導入しています。 ・地域から情報や協力を得られるよう、地域と友好関係を築くよう努めています。園は、自治会のパトロールのコースに入っていて、自治会から情報を得ることができます。
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p>  <p>(1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。 (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。 (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議などで子どもへの接し方や言葉掛けについて話し合い、職員間で注意し合える関係を作っています。保育士は子どもの目線に合わせて穏やかに優しく話しかけています。保育士は子どもの言葉に耳を傾け、子どもに問いかけたり言葉を足したりして、子どもの言葉を引き出し、子どもの気持ちを把握するよう努めています。 ・乳児保育室は仕切りや棚などで分けられていて、友達や保育士の視線を意識せずに過ごすことができます。幼児保育室には、押入れ下のスペースに子どもがもぐりこむことができます。 ・個人情報管理規程があり、全職員に周知しています。保護者に対しては、年度初めに個人情報の取り扱いについての基本方針を配布し、同意書を受け取っています。ホームページなどに子どもの



<p>(4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。</p>	<p>写真などを掲載する場合には、その都度個別に確認しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員会議等で話し合う仕組みがあります。気になる事例があった時には、皆で本を読んで学習したり、職員会議で取り上げたりしています。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや園のしおり、ホームページに法人の理念や基本方針、園目標などを明記するとともに、入園説明会や懇談会で保護者に園の目標や方針を説明しています。行事後や年度末には保護者アンケートを実施し、保護者が園の方針を理解しているかを確認しています。 ・子どもの送迎時には、保護者とのコミュニケーションに努め、その日の子どもの様子を伝えていきます。乳児は毎日、幼児は必要時に連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。年1回、個人面談を行っています。個人面談は、保護者の要望があればいつでも応じます。 ・保護者の相談には、事務室や空いている保育室を用い、相談内容を人に聞かれないよう配慮しています。相談を受けた保育士は必ず園長・主任に報告し、助言を受けられる体制となっています。相談は個人面談記録票に記載してファイルし、いつでもフォローできるようになっています。 ・毎月、園だより、クラスだより、ほけんだより、給食だよりを発行しています。幼児はホワイトボードにその日のクラスの様子を記載し掲示しています。年2回のクラス懇談会で、保育の内容や目的、子どもの様子などを説明しています。 ・前年度末に年間行事予定を配布しています。 ・幼児は毎月保育参観（お誕生会）を実施しています。乳児は、秋以降に保育参加を企画しています。 ・保護者会があり、交流会、親子遠足、ふれあい祭り等の行事の主催、駐車場の管理等を行っています。保護者会の役員会に保育室や物品の貸し出しをしています。親子遠足、ふれあい祭りなどの保護者会主催の行事には職員も参加しています。園長は、保護者会会長と常にコミュニケーションを取っています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、民生委員・児童委員、隣接する市営住宅、学童などとの交流を通し、施設に対するニーズを把握しています。園庭開放や育児相談、育児講座などに訪れた地域で子育てをしている保護者を通して、地域の子育て支援ニーズを把握しています。また、緑区園長会、幼保小連絡会等に参加し、子育て支援ニーズを把握しています。 ・子育て支援事業として、一時保育、園庭開放、交流保育（毎月のお誕生会、運動会）などを行っています。また、育児講座を年3回実施しています。育児講座のテーマとしては、造形遊び、夏野菜収穫、陶芸遊び、お芋ほりなどを実施しています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区発行の「みどりっこカレンダー」や緑区のホームページに育児相談や園庭開放などについて情報提供しています。正門横の園の掲示板にでも情報提供しています。また、地域の掲示板に園の行事のポスターを掲示しています。 ・毎週月、火、木、金の10時から11時半に育児相談を受け付けていて、実績もあります。 ・緑区こども家庭支援課、小学校、北部地域療育センターなどの関係機関のリストを整備しています。関係機関との連携の窓口は園長、主任で、日常的に連携する体制ができています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕会、運動会などに近隣のグループホームのお年寄りや園庭開放や一時保育の利用者を招待しています。 ・自治会長等とコミュニケーションを図り、行事の際、子どもが広場（プレイロット）を利用するにあたり、声をかけたり出向いたりしています。 ・和太鼓やハンドベルを山下小学校に貸し出しています。 ・地域の広場を使用した際には、掃除をするなど地域と友好的な関係を築くために努めています。 ・子どもたちは散歩で地域住民と挨拶や会話を交わしています。また、地域の園芸店に畑に植える苗を買いに行っています。幼児は、近隣のブルーベリー畑でブルーベリー摘みをしています。 ・年長児は緑区の保育園の年長児によるドッチボール大会に参加しています。山下小学校の子どもたちと日常的に行き来し、交流しています。 ・近隣のグループホームのお年寄りとは、行事に招待したり子どもたちが遊びに行ったりして交流しています。

<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページ、パンフレット、しおりでサービスの内容の詳細、料金、職員体制などの必要な情報を提供しています。また、横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」に園の情報を載せています。緑区の「みどりっこカレンダー」にも情報提供しています。 ・利用希望者に対して、園長、主任がパンフレットを用い園の基本方針や利用条件、サービス内容について説明しています。 ・利用希望者には見学ができることを案内しています。また、「みどりっこカレンダー」にも随時見学ができることを掲載しています。見学に際しては、見学者の希望を聞き日程調整しています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアのしおり、実習生のしおりがあり、それに基づき園の方針や守秘義務など必要な心構えを説明しています。 ・ボランティアや実習生の受け入れにあたり、あらかじめ職員に説明しています。保護者に対しては園だよりで知らせています。 ・サマーボランティア、高校のインターンシップを受け入れています。ボランティア終了後には感想を書いてもらっています。 ・受け入れの担当は主任で、実習生の希望を聞きながら、実習目的に沿ったプログラムを作成しています。一日の終わりには振り返りを行っています。また、最終日に保育士も参加して反省会を行って実習生と意見交換しています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅴ－１ 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人が必要な人材をチェックし、多様な方法で募集し、必要な人材を補充しています。法人では人材育成の基本的な方向性を定めています。目指す職員像、職員に求められる能力を明記しており、それに基づいて人材育成計画が策定されています。また、非常勤職員の中から、常勤職員にふさわしい職員については、常勤職員として採用する仕組みをもっており、非常勤職員の意欲・士気を高めると同時に人材確保の仕組みともなっています。 ・また、常勤職員が、子育てなどで、毎日の勤務が難しくなったときには、非常勤職員に職系転換を図るなど、勤務しやすい仕組みを作っています。 ・運営法人では、内部研修の年間計画を作成しています。これには職員は積極的に参加することが求められています。外部の研修会にも職員は積極的に参加することが推奨されています。 ・非常勤職員の指導担当者は主任が行っており、職員間の適切なコミュニケーションが取られています。

V-2 職員の技術の向上



- (1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。
- (2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。
- (3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- ・ 運営法人では人材育成の基本的な方向性を定めています。目指す職員像、職員に求められる能力を明記しており、それに基づいて人材育成計画が策定されています。
- ・ 月間指導計画や週案は、必ず振り返りが行われており、記録に残されています。これらの振り返りは、指導計画の狙いとの関連づけで行われています。
- ・ 年度末には、自分たちの自己評価を踏まえて、年間の運営に関する振り返りをクラス会議やリーダー会議で行っています。
- ・ 保育園として、園の理念や方針、保育課程に沿って自己評価は行っていません。しかしながら、保護者に対するアンケート調査は行っており、その結果も保護者に公表しています。職員の自己評価と保護者のアンケートという他者評価があり、園としての自己評価を行う素地ができあがっています。これらを統合して園としての自己評価が行われることが期待されます。



V-3 職員のモチベーションの維持




- (1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・ 人材育成計画の一環として、職員のランク別に目標とする業務内容・役割が明記されています。
- ・ 年度末に、自己評価表を提出した後に園長による職員に対する個人面談を行っており、その際に職員の満足度等を把握するようにしています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。 (2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の倫理規定、就業規則等で職員が不正な行為を行わないように明文化され、周知されています。 ・ 資源ゴミ、可燃ゴミの分別を行っており、牛乳パックなどは物入れの制作、広告チラシはメモ用紙などで再利用しています。 ・ 園の周囲には様々な樹木が植わっており、園は自然の緑に囲まれています。さらに園庭にみかん、柿、ゆずなどの樹木を植えたり、プランターに様々な草木を植えるなどして、緑化に取り組んでいます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のしおりに園の保育目標、園目標が記載されており、これを全職員に配布しています。 ・ 重要な園の課題については、職員とは職員会議、リーダー会議などで、経過報告をして、職員理解を求めています。保護者に対しては保護者懇談会を通して保護者との間で意見交換を行っています。 ・ 主任はリーダー会議や、毎朝のクラスの巡回などを通して、現場の職

<p>(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<p>員の状況を把握しており、職員が良好な状態で仕事ができるように配慮しています。</p>
<p>VI-3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は運営法人の系列園の園長会に出席したり、緑区園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集しており、園に関係する重要な情報については、リーダー会議や職員会議等で共有しています。 ・法人では、平成28年度までの5年間の中期計画、29年度から34年度までの中期計画を策定しています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2016年6月20日～7月1日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 61.6%（86枚配付、53枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…8人、1歳児クラス…8人、2歳児クラス…10人、3歳児クラス…9人、
4歳児クラス…4人、5歳児クラス…11人、無回答…3人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

- ・ 保育園の保育目標や保育方針については、「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は、合わせて73.6%ですが、その中で保育園の保育目標や保育方針に「賛同できる」（66.7%）、「まあ賛同できる」が30.8%と合わせて97.5%が支持しています。
- ・ 問2～7までの項目の中で満足度が95%以上と高かった項目を挙げると、問2の日常生活の保育内容の中で「遊び」についての「クラスの活動や遊びについて」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」でした。さらに、「生活」についての中で「給食の献立内容について」「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかについて」でした。さらに、問7の職員の対応の中で「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」でも96.2%の満足度となっており、全般的にみて、保育内容については満足度が高い項目が多く見られました。
- ・ これに対して、不満の割合が10%以上と高かった項目は問5の保育園の快適さや安全対策の項目に集中していました。すなわち「施設設備について」「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっている」「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについて」「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」でした。さらに、「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」や問7職員の対応の中の「話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについて」といった項目も10%以上でした。
- ・ 総合的な満足度は「満足」が52.8%、「どちらかといえば満足」が34.0%で、合わせると86.8%が満足と回答していました。
- ・ 自由記述には「子ども達にいろいろな体験をさせてくれているので、子どもものびのびと過ごしていると思います。トイレトレーニング等もしっかりしてくれているので助かっています。」「総合的には子どもをよく見てくれて「子育て」をしてくれていると感じられ素晴らしい園です」「先生との相談は時間を取って下さって、じっくり話を聞いてもらえました。」という意見がありました。これに対して「斜面に施設があることもそうですが、建物のリフォーム等をご検討いただくと助かります。」といった意見も見られました。

◆まとめ

- ・ 全項目37項目のうち、90%以上の満足度を示す項目は20項目にも達しています。特に問4「保育内容」の中で、「遊び」については、6項目中全項目、「生活」については7項目中6項目が90%以上の満足度で、保育の内容についての満足度の高い点が特徴的でした。
- ・ これに対して問5の保育園の快適さや安全対策の面で不満とする割合が高くなっています。園の構造に起因する項目でした。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2016年6月20日～7月1日

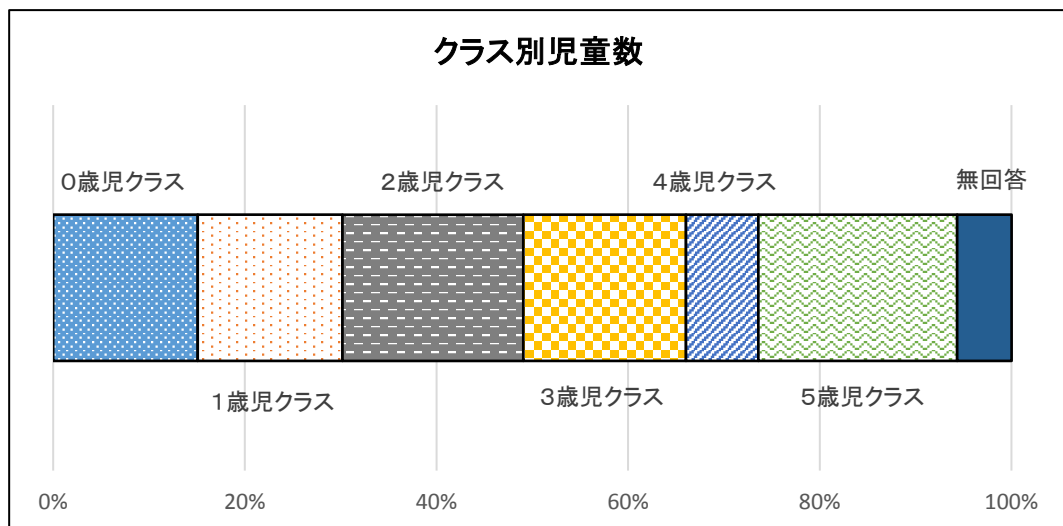
回収率：61.6%（回収53枚／配布86枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
53	8	8	10	9	4	11	3

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

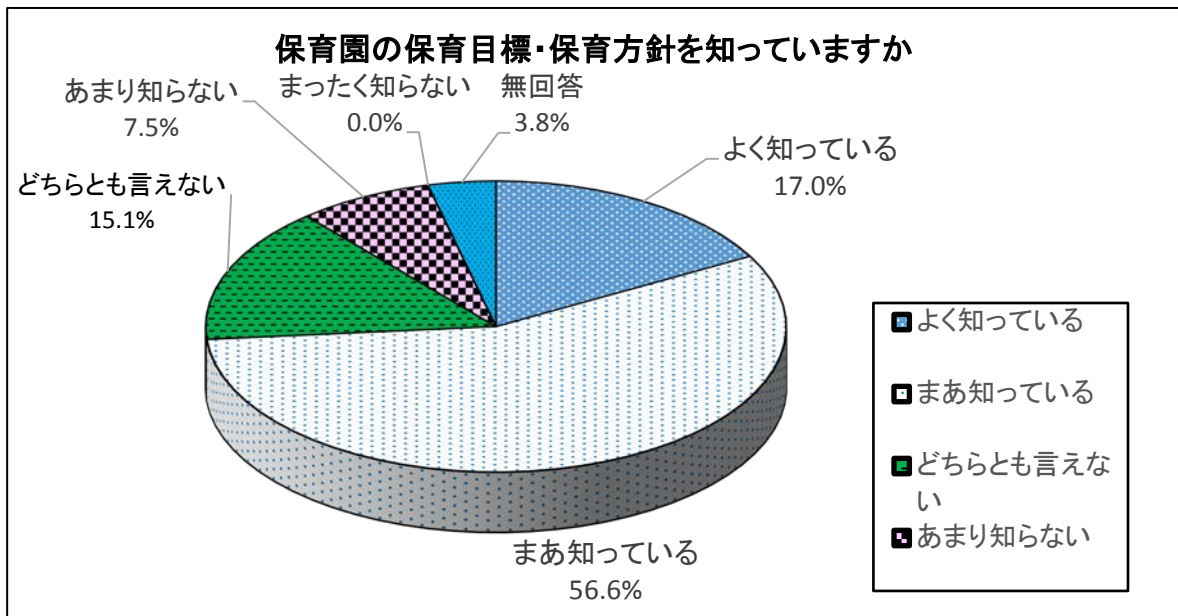


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	17.0%	56.6%	15.1%	7.5%	0.0%	3.8%	100.0%

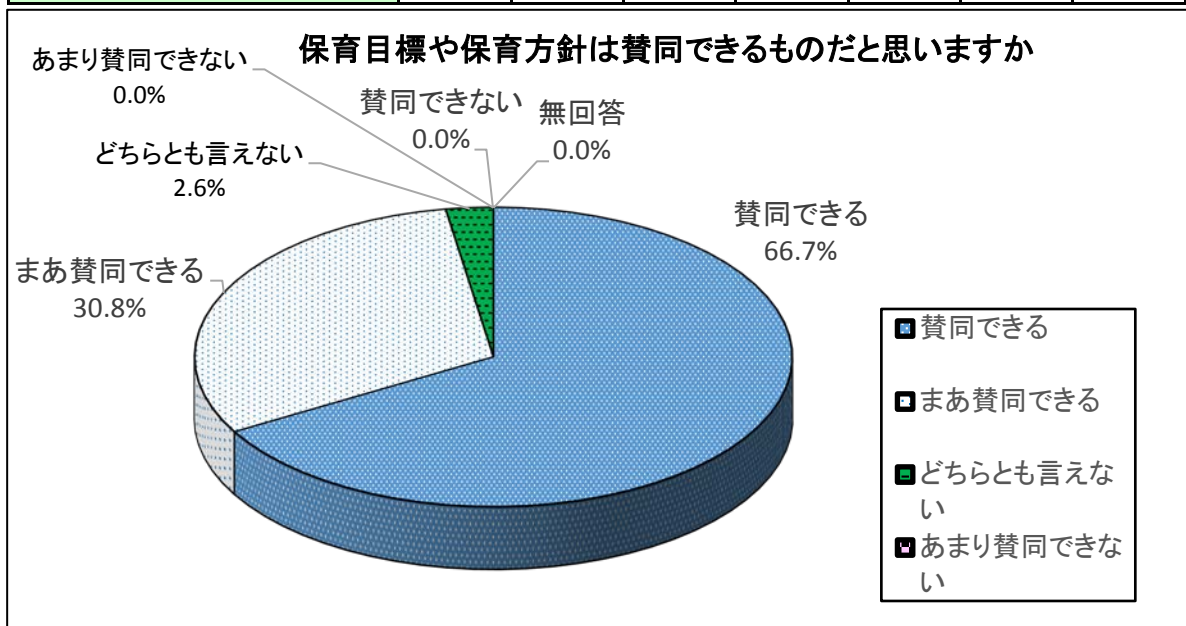
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	66.7%	30.8%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



■ 保育園のサービス内容について

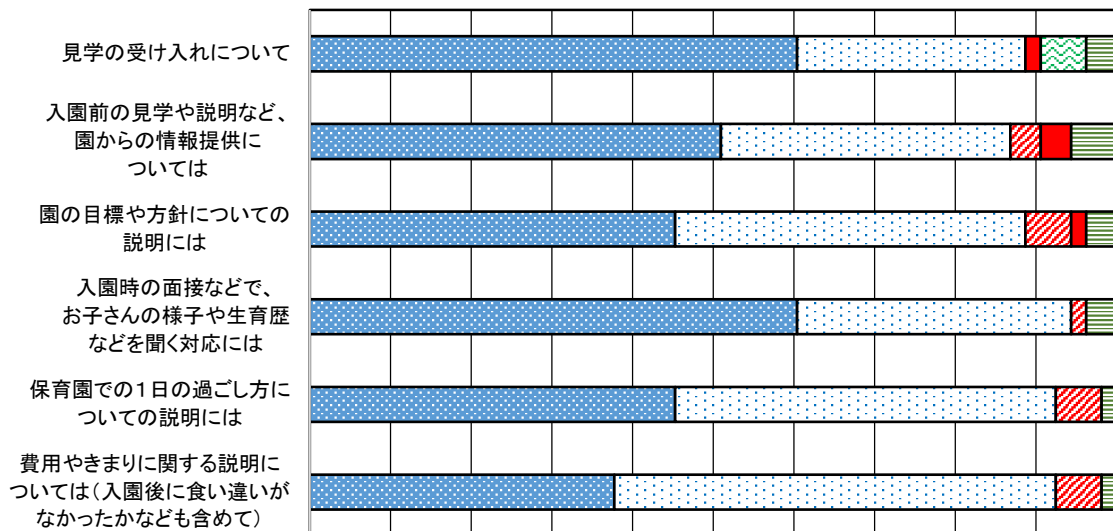
問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	60.4%	28.3%	0.0%	1.9%	5.7%	3.8%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	50.9%	35.8%	3.8%	3.8%	0.0%	5.7%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	45.3%	43.4%	5.7%	1.9%	0.0%	3.8%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	60.4%	34.0%	1.9%	0.0%	0.0%	3.8%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	45.3%	47.2%	5.7%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	37.7%	54.7%	5.7%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%

入園時の状況について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



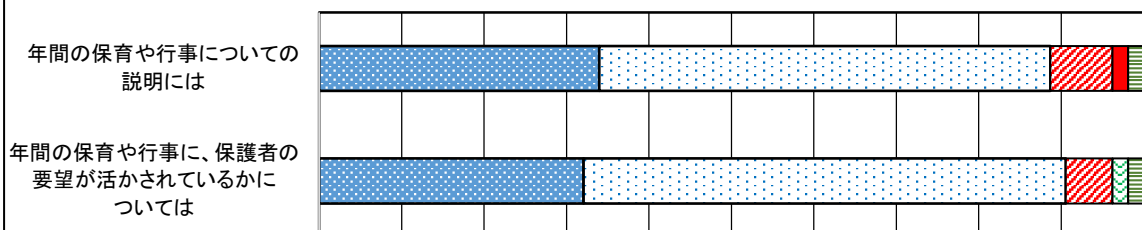
問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	34.0%	54.7%	7.5%	1.9%	0.0%	1.9%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	32.1%	58.5%	5.7%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%

年間の計画について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

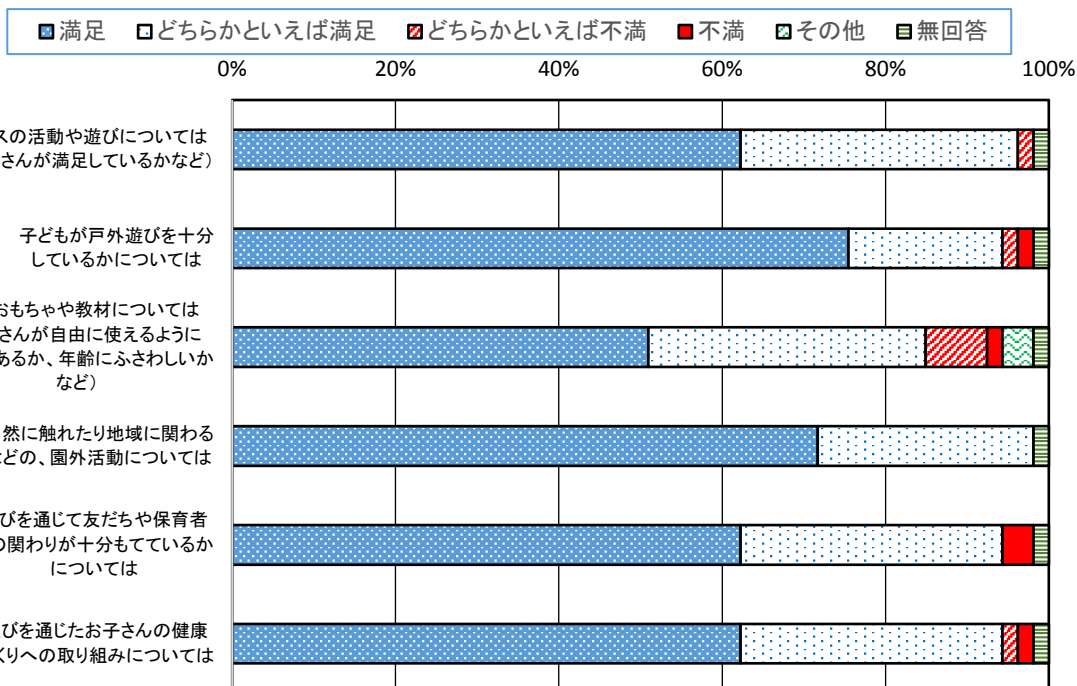
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	62.3%	34.0%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75.5%	18.9%	1.9%	1.9%	0.0%	1.9%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	50.9%	34.0%	7.5%	1.9%	3.8%	1.9%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	71.7%	26.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	62.3%	32.1%	0.0%	3.8%	0.0%	1.9%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	62.3%	32.1%	1.9%	1.9%	0.0%	1.9%	100.0%

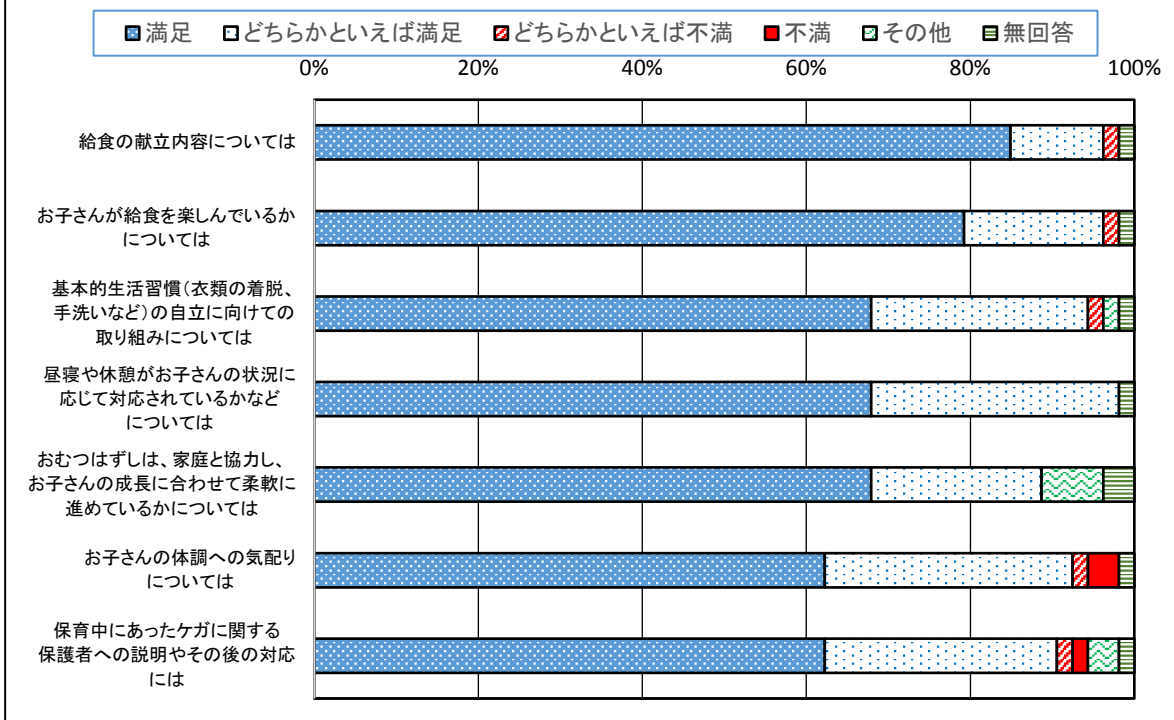
日常の保育内容「遊び」について



●「生活」について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	84.9%	11.3%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	79.2%	17.0%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	67.9%	26.4%	1.9%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	67.9%	30.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	67.9%	20.8%	0.0%	0.0%	7.5%	3.8%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	62.3%	30.2%	1.9%	3.8%	0.0%	1.9%	100.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.3%	28.3%	1.9%	1.9%	3.8%	1.9%	100.0%

日常の保育内容「生活」について



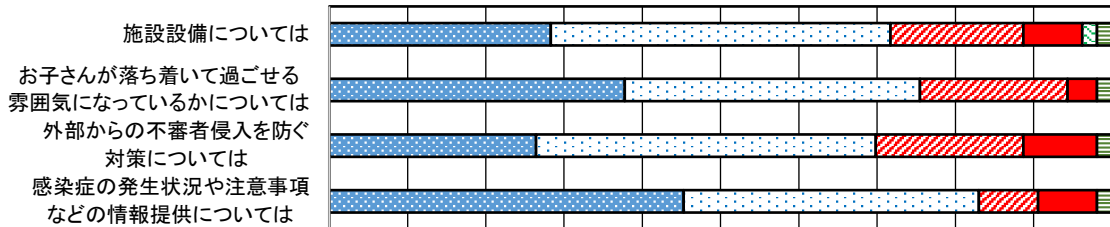
問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	28.3%	43.4%	17.0%	7.5%	1.9%	1.9%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	37.7%	37.7%	18.9%	3.8%	0.0%	1.9%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	26.4%	43.4%	18.9%	9.4%	0.0%	1.9%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	45.3%	37.7%	7.5%	7.5%	0.0%	1.9%	100.0%

快適さや安全対策などについて

■満足 □どちらかといえば満足 ▨どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



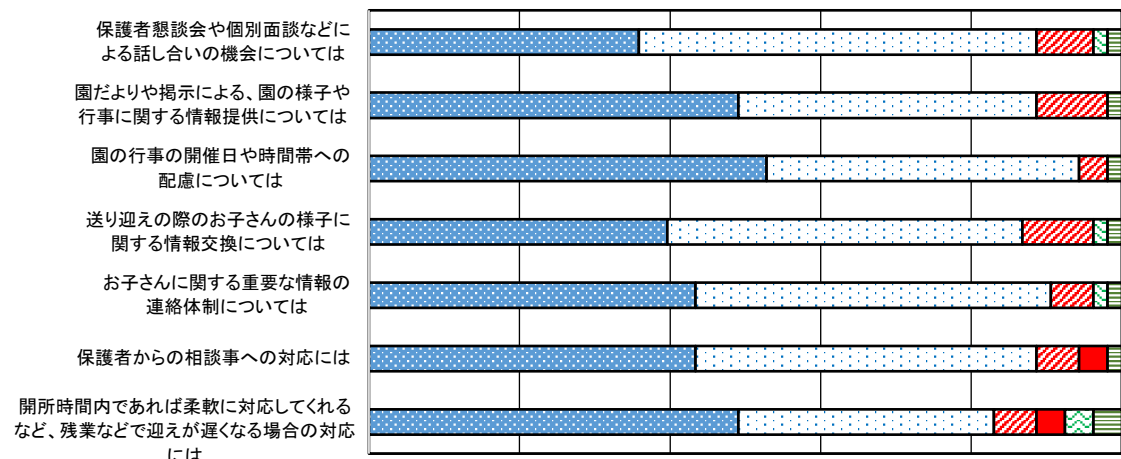
問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	35.8%	52.8%	7.5%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	49.1%	39.6%	9.4%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	52.8%	41.5%	3.8%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	39.6%	47.2%	9.4%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.4%	47.2%	5.7%	0.0%	1.9%	1.9%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	43.4%	45.3%	5.7%	3.8%	0.0%	1.9%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	49.1%	34.0%	5.7%	3.8%	3.8%	3.8%	100.0%

園と保護者との連携・交流について

■満足 □どちらかといえば満足 ▨どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

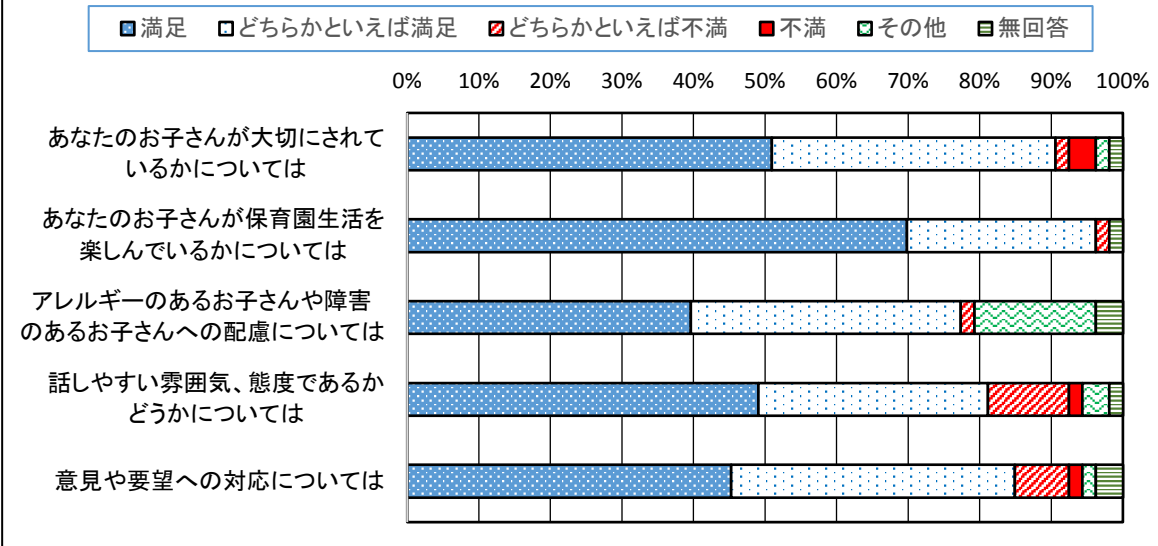
0% 20% 40% 60% 80% 100%



問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

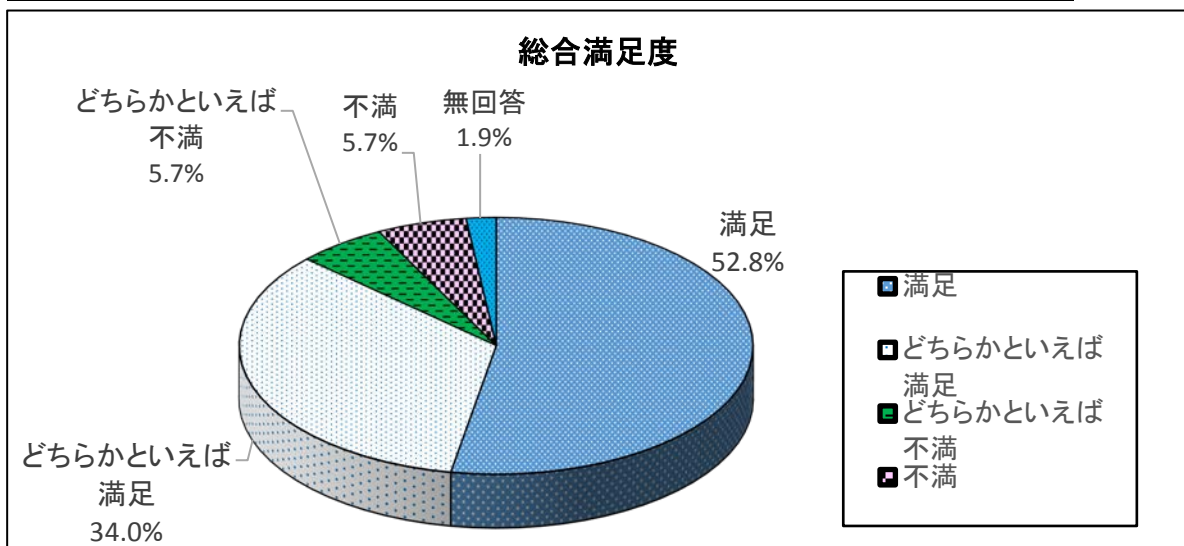
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	50.9%	39.6%	1.9%	3.8%	1.9%	1.9%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	69.8%	26.4%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	39.6%	37.7%	1.9%	0.0%	17.0%	3.8%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	49.1%	32.1%	11.3%	1.9%	3.8%	1.9%	100.0%
意見や要望への対応については	45.3%	39.6%	7.5%	1.9%	1.9%	3.8%	100.0%

職員の対応について



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	52.8%	34.0%	5.7%	5.7%	1.9%	100.0%



利用者（園児）本人調査 分析

◆観察調査 1日目) 7月29日(金) 9:00~17:00

2日目) 8月2日(火) 8:30~17:00

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児・1歳児クラス（ひよこ組）

ひよこ組は、0歳児と1歳児の低月齢児のクラスで、活動内容や月齢・発達に合わせて2つのグループに分け、それぞれのペースで落ち着いて活動できるようにしています。朝の会の後、水着に着替え、音楽をかけて体操をします。子どもたちは保育士の真似をして手を振ったり、転がったりしています。順番にテラスに出てプール遊びが始まります。喜んでプールに入る子ども、外からプールの水をこわごわ触る子どもと水への反応は子どもによって様々です。保育士は少しずつ水をかけたり遊んでみせたりして、子どもをプールに誘います。水に慣れてくると子どもたちは、ジョウロやコップで水をすくって出したり、ぱちぱち水たたいたりし、歓声を上げています。水が苦手な子どもには、保育士がおもちゃを使って少しずつ誘い、子どもがバケツの水をぱちぱち触ると大げさに褒めて励まします。

食事は、離乳食の子どもは個別の食事用椅子で、普通食の子どもはテーブルを囲みます。離乳食の子どもには、保育士がついてそれぞれのペースでゆったりと食べさせます。普通食の子どもは皆で「いただきます」をして、一緒に仲良く食べます。子どもたちは食欲が旺盛で、手やスプーンを使って意欲的に食べていき、お代わりをする子どもも複数いました。

◆ 1歳児クラス（ぺんぎん組）

朝のおやつの後には、園庭で遊びます。大きなカゴに入ったたくさんの砂遊びの道具の中から、思い思いに好きな道具をとり遊び始めます。それぞれが好きな道具を選ぶことができているので子どもたちは満足気です。数が少ない電車の形をした入れ物をめぐって取り合いがおきると、保育士が「今使っているから、後で貸してもらおうね」と子どもに分かるように丁寧に説明し、かわりのおもちゃを持ってきて遊びに誘うと、子どもも納得して遊び始めます。2歳児も合流しますが、異年齢が自然に交わり、黙々と遊びが続きます。

園庭遊びの後、プールに入れない時は服を着たまま水遊びを楽しみます。バケツに水を入れたりジョウロで水をかけたり、たらいから水を移したり、足だけたらいの中に入ってじゃぶじゃぶしたりしています。食事の前に保育士が献立を説明すると子どもたちは、「もやし」「たまご」と献立名や食材を復唱します。保育士に「カミカミ」「すごいね」「上手だね」などと声をかけてもらったり、スプーンですくう手助けをしてもらい、子どもたちは楽しく食事をします。

◆ 2歳児クラス（ぱんだ・こあら組）

2歳児はぱんだ組とこあら組の2クラスに分かれていて、朝夕の自由遊びや食事、午睡は合同で行っていますが、活動は内容や子どもの様子を見ながら分け、子どもが落ち着いて活動できるようにしています。朝の会の後は、それぞれの活動に入ります。こあら組からプールに入ることになり、子どもたちは順番にトイレに行き、自分で水着に着替えます。保育士に「見て見て」と水着を見せ、「かわいいね」と誉めてもらう子どももいます。ビニールプールでは、保育士が子どもたちに、水をすくって頭からかけたり、子ども同士おもちゃで水をかけあって遊んでいます。子どもたちは、「きゃー」「わー」と歓声

をあげていて、水を嫌がっている子どもはいません。待っているぱんだ組は、保育室でウレタンブロックとぬいぐるみで遊びます。ウレタンブロックを高く積み上げたり、ブロックを部屋にみたくてままごと遊びをします。2つのクラスのプール遊びが終わると、2クラス合同でぱんだ組の保育室に移動し、給食を楽しみました。

◆ 3歳児クラス（うさぎ組）

散歩の準備が整うまで、歌を歌って待ちます。保育士が動作をつけて歌うと、子どもたちも合わせて歌います。2人ずつ手をつないで散歩に出発します。道を渡る時は、片手を上げます。小さな公園に着き、子どもたちは思い思いに走り回り、元気に遊びます。行きとは違う道を通って保育園に戻り、そのまま園庭で自由に遊びます。子どもたちは好きなおもちゃを持ち出し、砂場で遊び始めます。保育士が水道のホースを持ってきて、四角いポリ容器に水をどんどんためていくと、子どもたちは自由に小さなバケツやジョウロにくみ取って砂場に行き、山や水路を作ったり、おままごとをしたり、泥をこねたりします。

園庭遊びが終わり階段を上って3歳児の下駄箱に行くと、下駄箱の中にカブトムシを見つけます。子どもたちは一斉に集まってきて、カブトムシをどうするかの相談になります。話し合いの結果、「命があるから逃がしてあげよう」ということになり、保育士がカブトムシを捕まえて、園庭に逃がしてあげました。

◆ 4歳児クラス（りす組）

観察日は久しぶりに晴れたので屋上のプールで遊びます。子どもたちは、プールの角に手をつけてプールに入っていきます。水に入ると、まず自分自身に水を全身にかけ、次にプールの端に座って、足を前に上げてバタバタしています。立って歩いた後は、自由に遊びます。泳ぐまねをする子ども、歩いたり走ったりする子どもと、思い思いに楽しんでいます。プールから出ると、仰向けに寝て日光浴をして身体を温め、シャワーを浴びます。

プールの後は、保育室で遊びます。2つのグループに分かれ、床の上にあらかじめ張られた白いテープの目印をめがけて両足開脚跳びをします。その後は、大きな風呂敷を8人の子どもが端を持って、全員で上げ下げしたり、波を作って遊ぶターバンマット遊びです。全員がそろわないとうまく形状が作れないので、子どもたちは集中して取り組んでいました。

◆ 5歳児（きりん組）

朝の自由遊びには、グループでカブトムシの世話をしたり、一人で黙々とブロックで作品を作ったり、友達とブロックでごっこ遊びをしたり、テーブルで塗り絵や粘土をしたりしています。カブトムシは人気で、エサのゼリーをやる子ども、取り出して観察する子ども、図鑑で調べる子どもと皆思い思いの関わり方をして集中しています。すぐろくを出す子どもがいたら、すぐに何人かが集まり、自分たちで順番を決めて遊び出します。

朝の会の後は、畑へ雑草を取りに行きましたが、前夜の雨でぐしょぐしょだったので、雑草取りではなく畑の観察をします。子どもたちは「ピーマンができています」「ナスだ」「小さいスイカができています」「トマトだ」と喜んでいきます。大きなヒマワリを見たり、テントウムシやバッタ、ダンゴムシ、ミミズなどを見て回ります。毛虫か芋虫かで議論になると、虫に詳しい子どもが自分の知識を披露し、子どもたちは「さすが！」と感心します。

園に戻った後は、水遊びをしました。水鉄砲の水を天井に当てて雨のように落ちてくると喜んだり、テラスの柵の穴から空に向かって水をだし虹を作ったり、天井のクモの巣に水をあてたりと水遊びでも子どもたちの興味は自然に向いていました。

◆ まとめ

恵まれた自然環境の中、子どもたちは水や土、虫、草花などに親しんでいます。園庭や散歩先でカブトムシやダンゴムシなどの虫を観察して、命の営みを肌で感じたり、畑の世話で食の大切さを、実体験を通して学んでいます。子ども同士の関わりも多く、お互いの良さを認め、お互いの足りない部分を補い合う姿を観察時にもたくさん見ることが出来ました。

事業者コメント

第三者評価を受審するのは、2回目になります。前回受審の時の職員もいますが、初めての職員も多かったので、「今までの保育の見直しと今後の保育のステップアップ」を目指すために行うことを伝え取り組みました。

全員が集まって話し合うことは難しく、4グループに分かれ数回集まり、話し合いを重ねていきました。

話し合いを進めていく中、保育理念・保育目標・園目標・各種マニュアルの見直しが、全職員でできたことは、大きな収穫となりました。

また、「今ある現状で、保育環境をどのように設定するか」「保育士の言葉遣いの重さ」「一人一人の子どもに丁寧に寄り添う姿勢の大切さ」「日常の保育の積み重ねが子どもの育ちの援助になる」「安心・安全・旬の食材・野菜中心の献立による給食」などを改めて確認し合いました。

小山保育園は、斜面を利用し建てられた園舎です。不便なこともありますが、それを生かしたローラーすべり台・自然に囲まれた園庭と畑で、子どもたちの笑顔を引き出せるような保育を保護者の方々と協力しながら、これからも心掛けたいと思っています。

小山保育園

園長 人見 綾子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
